学校通信

平成３０年度　第４号
平成３０年　７月　２日
練馬区立開進第三小学校
校　長　岡　部　良　美

『子供が「やりたい」学校から「やり遂げる」学校へ』

校長　岡部　良美

朝、笑顔で登校する子供たちの様子を見ていると、今日一日の活力が湧いてきます。『学校は子供をよくするところ』です。「今日も学校に来てよかった」「先生や友達に逢えてよかった」「みんなと一緒にできてよかった」など、自分だけでは味わえない人とのかかわり、温もり、楽しさがいっぱい感じられる学校であれば、自然と足が向くものです。それぞれの個性を発揮し、「やりたい」ことがある学校であれば、学校へ足が向くのです。「やりたい」ことが「やれる」。「やれる」ことを「やり遂げる」。その中で、子供たちの主体性が養われ、一人ひとりの子供は自信をつけ、成長していきます。「やり遂げる」経験には、「素敵」「素晴らしい」「驚き」「感動」という宝がいっぱい詰まっています。だからこそ、発見した時に、歓声や拍手が沸き起こるのです。発見は自分だけのものにしておけないのが子供です。感情の分かち合いです。「ねぇ～、見て観て！」「ねぇ～、聞いて聴いて！」など。夢中になった時、虜になった時、周りの友達に話し掛けたり呼び掛けたりしたくなるのが子供の世界です。

「はあ、すごいね」「ひやあ、すごいね」「ふうん、そうか」「へえ、そうなんだ」「ほんとう、びっくり」・・・。「やりたい」ことを「やり遂げる」経験によって、子供たちの笑顔の輪は広がり、共に感動し合い、確認し合い、理解し合って、自信をつけていくのです。「はひふへほ」の感情が共有できる場面こそ、笑顔の輪が友達から仲間への和になっていく時です。「やりたい」ことを「やり遂げる」と、さらに「もっとやりたくなる」ものです。こうした経験の積み重ねによって、子供たちは成長していくのです。

かけがえのない子供のために、誰しもが次のような願いをもつことと思います。「元気でたくましく成長してほしい」「思いやりのある子に育ってほしい」「できるならば、勉強のよくできる子になってほしい」。しかし、子供は思い通りには育ちません。時には大変な困難を伴います。では、私たちに何ができるでしょうか。私は、次の３点を挙げます。

第１点は、子供を無条件にかわいがること。子供は、周りの大人から愛され、守られていると感じている時に、情緒的に安定します。情緒力は知的能力の土台です。

第２点は、食習慣をはじめとする生活リズムを確立すること。諸調査（学力や体力）の結果を見ても、朝食をしっかり食べるなどの生活習慣と、学力や体力との相関関係は高いです。

第３点は、読書習慣を付けること。読書は相手の気持ちを理解し、思いやりの子供を育てます。読書力は学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等）にそのままつながります。

開三小は子供たちが今日も「やりたい」ことを「やり遂げる」ために、みんな元気に登校してきています。